第22回学術総会/プレジデンシャルシンポジウム 1

日本のすみずみまで乳癌検診を

東京における乳がん検診の現状と問題点

——がん検診に関する意識調査より

(公財)東京都予防医学協会¹⁾, 東京都生活習慣病検診管理指導協議会(がん部会)²⁾坂 佳奈子^{1,2)} 小野 良樹¹⁾ 広松 恭子²⁾ 角田 博子²⁾

要旨: 日本でのマンモグラフィ検診が実施され10年余であるが, 乳がん死亡者数は増加の一途であり, その理由の一つは受診率の低迷であると考えられる。東京のように医療機関, 検診機関が数多く存在し, 公共交通機関網も整っている大都会でなぜ受診率が低迷しているのかについて, 東京都を都心部, 郊外, 島嶼部と三つに区分し, がん検診に関する意識調査を実施し分析検討した。

アンケート回答数は5,733名。ほぼ定期的に受けている(5年間で2回以上)と回答した方が73.3%と比較的多い結果であった。しかしながら, いまだに「忙しい」「面倒くさい」という理由で定期的に受診しない方も多く, さらなる健康教育・啓発活動の重要性を感じた。積極的に受診できるための条件では「希望日に受診」「職場・自宅近く」「他の検診と共に」があり, 実現可能な条件も多く, 検診を提供する側のさらなる努力も必要だと感じた。

今回, ライフスタイルが異なる三つのエリアでのアンケート調査で相違点が出るのではないかと予想したが, 受診者の希望や傾向に大きな違いはないことが判明した。その中で23区内, 仕事をしている女性からは, 「勤務中」に検診を受けたいという意見がみられた。このような傾向は東京都のような大都会型検診の特徴だと思われた。職業を持つ女性が地域検診を受けやすくするためのシステム作りや職域検診など任意型検診におけるがん検診精度管理も都会での大きな課題だと改めて思われた。

索引用語: 乳がん検診, アンケート調査, マンモグラフィ, 受診率

はじめに

乳がん検診は1987年に老人保健法により30歳以上の女性の視触診として開始され, 2000年老健第65号により, 50歳以上に対してマンモグラフィ検診が2年に1回一方向撮影で開始された¹⁾。その後, 2004年に老老発第0427001号として, 40歳代に対し2年に1回二方向撮影が追加され²⁾, 現在に至っている。このように日本における乳がん検診は十分な精度管理のもと, 対策型検診が実施され10年余となった。しかしながら, 乳がん死亡者数は増加の一途であり, その理由の一つは受診率の低迷であると考えられる。東京都においても平成22年度の区市町村健康増進事業報告によるデータで受診率15.8%³⁾であり, 全国平均19%と比較しても低迷している。さらに職域検診や人間ドックを合わせた東京都福祉局の調査においても, 平成22年度のデータで32.8%⁴⁾と国の推奨する検診受診率50%以上にはま

だまだ届かないのが現状である。

東京のように医療機関, 検診機関が数多く存在し, 電車などの公共交通機関網も整っている大都会でなぜ受診率が低迷しているのかについて, 受診者に乳がん検診に関するアンケートによる意識調査を実施した。

1. 方法

当施設での乳がん検診受診者のうち地域検診(対策型検診)を都心部(23区内), 都下(市町村部), 島嶼部と東京都を三つに区分し, 乳がん検診に関する大規模アンケート調査を実施し, 分析検討する。今回, 委託契約をしている都心部3カ所, 都下15カ所, 島嶼部3カ所で検診を実施し, 併せてアンケート調査も実施した(図1)。参考データとしてアンケート期間中に職域検診や個人検診など任意型検診を受診した方も含めた。アンケート実施期間は2012年6月1日~7月31日までの二カ月間。島嶼部はそれぞれの検診期間中とした。

また平成20年度に東京都福祉保健局が住民基本台帳から層化二段無作為法により抽出し, 都内(島嶼を除く)に居住する満20歳以上の女性3,000人を対象に行っ

別冊請求先: 〒162-8402 東京都新宿区市谷砂土原町 1-2

(公財)東京都予防医学協会 坂佳奈子

e-mail address: k.ban@yobouigaku-tokyo.jp

図1

たアンケート調査結果も参考データとして提示する⁵⁾。

Ⅱ. 結果

アンケート回答数は5,733名、内訳は施設内地域検診(都心部23区内)844名、バスによる地域検診(都下市町村部)1,698名、バスによる離島検診(島嶼部)762名であり、任意型では職域検診が2,339名、個人検診が90名であった(表1)。

図2に示すように、東京都福祉局のアンケート調査によると、東京都においては40歳代では職域・人間ドックなどの任意型検診を受診している方の割合が63.2%、対策型検診としての住民検診が35%、50歳代では任意型検診50.6%、対策型検診42.9%、60歳代任意型検診47.9%、対策型検診42.5%、70歳以上の年代

表1. アンケート内訳

アンケート総数	5,733名
地域 当施設内	844
地域・バス	1,698
地域・離島	762
職域・施設内	2,339
個人	90

では任意型検診33.1%、対策型検診35.8%、診療健診11.3%と、70歳代では診療健診が増えたのが原因かは定かでないが、任意型検診の割合が若干減っているものの、全体的には対策型検診よりも職域や人間ドックなどの任意型検診を受ける人の割合が多いことがわかる。2011年度の当施設で実施した検診の統計では任意型検診45.6%、対策型検診54.4%という割合であり、

図2. 東京都アンケート：年代別・検診種類

図3. 乳がん検診受診の有無

図4. 設問1: 検診区分別

任意型検診と対策型検診の受診者数はほぼ同数で、東京都のアンケート回答数と類似した割合になっている。

当施設でのアンケート結果であるが、ほぼ定期的に行っている(5年間で2回以上)と回答した方が73.3%、不定期であるが受けている(5年間で1回程度)が13.3%、今回が初めてもしくはほとんど受けていないという回答が12.9%であった(図3)。検診区分ごとに比べると、職域検診で定期的な受診者が多く、バス出張検診では低い傾向があった(図4)。

定期的に受けている方への質問として「定期的に受けている理由」(表2)を示す。結果は東京都福祉局のアンケート結果とともに表3に示すが、一番多い回答が「年齢的に検診の対象の年齢だから」というのが挙げられた。次いで「検診の内容(メニュー)にあったから」「検診のお知らせが来たから」と続いている。都下および離島のバス検診では「近隣に乳がん専門施設がなく、このみ」という回答も見られた。また「勤務時間内に受けられたから」と回答した方が施設内の地域検診の中にもみられたのはやや疑問な点であった。個人検診では「家族・知人に勧められた」「女性

表2. 設問2

定期的に乳がん検診を受ける理由について
(対象: ほぼ定期的に受診している方)

1. 年齢的に検診の対象であるから
 2. 気になる症状があるから
 3. 検診の内容(メニュー)に含まれていたから
 4. 検診のお知らせが来たから
 5. 家族、友人に受診を勧められたから
 6. 家族に乳がんの方がいるから
 7. 勤務時間内に受診できたから
 8. 女性医師だったので
 9. 夜間・休日に受診できたから
 10. 費用が安かった(無料だった)ので
 11. 近隣に乳がん専門施設がなく、このみ
 12. その他
- * 上位3つまで選択

医師だったので」など他の検診とはやや異なる回答も見られた。

次に不定期およびほとんど受けていないという方を対象に「定期的に受診しない理由」を質問した(表4)。「がん検診に対して否定的な考えがある」「健康に自信がある」は回答数がかなり少なく、それぞれ回答数

表 3

	第一位	第二位	第三位	第四位	第五位
全体	年齢的に	メニュー	お知らせ	勤務時間内	費用が安い
地域・施設内	年齢的に	メニュー	お知らせ	費用が安い	勤務時間内
地域・バス	年齢的に	メニュー	お知らせ	知人の勧め	近隣にない
地域・離島	年齢的に	近隣にない	メニュー	費用が安い	お知らせ
職域	年齢的に	メニュー	勤務時間内	お知らせ	費用が安い
個人	年齢的に	お知らせ	知人の勧め	メニュー	女性医師
	第一位	第二位	第三位	第四位	第五位
東京都	年齢的に	メニュー	お知らせ	自宅・職場近くで 受診	検診を勧める情報 を見た

*略語にて記載，詳細は表 2 参照

表 4. 設問 3

定期的に乳がん検診を受けない理由について (対象：不定期およびほとんど受けてない方)	
1. 今回ががん検診開始の年だったので	
2. 検査に痛みがあるから	
3. 恥ずかしいから	
4. どこで受けたらよいかわからず	
5. がん検診に対して否定的な考えがある	
6. がんが見つかったら怖い	
7. 心配であればいつでも医療機関に行ける	
8. 健康に自信がある	
9. 面倒くさいから	
10. 忙しいから	
11. 費用が負担	
12. 夜間休日に受診できない	
13. 会社の検診内容に入っていない	
14. 勤務時間中に行けないから	
15. 定員がいっぱいで断られたから	
16. 自宅や職場の近くで受けられないから	
17. その他	*上位三つまで選択

は25,92であった。「夜間休日に受診できない」も回答数59と少なかった。結果を表 5 に提示する。東京都福祉保健局のアンケートはまったく受診をしたことがない方を対象としており，私たちの施設では初めてであっても検診会場に来ている方を対象にしているので回答の傾向にやや違いがみられた。当施設の回答を中心に示すが，一番多いのが「忙しい」であった。次が「今回ががん検診開始の年であるので」であり，どの区分にも約15%の割合での開始年齢の方が含まれていた。あとは「費用が負担」「心配であればいつでも医療機関に行ける」「面倒くさい」が続いている。またコメント欄には自由意見として「出産・授乳が続いて検診が受けられなかった」というものも複数名より記入されていた。

「どのような条件が揃えばもっと積極的に受診できるか」という質問(対象者全員)に対しては(表 6, 7)「無料」「職場自宅の近くで受診したい」「希望日にすぐ予約できる」「他のがん検診や他の健診と一緒に」「女性スタッフ」と続いた。「抽選や定員制でなく」という

表 5

	第一位	第二位	第三位	第四位	第五位
全体	忙しい	開始の年	費用が負担	どこで受けたら	いつでも医療機関
地域・施設内	忙しい	開始の年	費用が負担	どこで受けたら	面倒くさい
地域・バス	忙しい	開始の年	いつでも医療機関	費用が負担	どこで受けたら
地域・離島	忙しい	開始の年	自宅職場近くでない	いつでも医療機関	面倒くさい
職域	開始の年	忙しい	検診内容にない	どこで受けたら	面倒くさい
個人	検査に痛み	忙しい	費用が負担	開始の年	どこで受けたら
	第一位	第二位	第三位	第四位	第五位
東京都	いつでも医療機関	忙しい	面倒くさい	検査に痛み	費用が負担

*略語にて記載，詳細は表 4 参照

表 6. 設問 4

どのような条件が揃えばもっと積極的に乳がん検診を受診できると思いますか? (対象: 全員)	
1. 乳がんの予防や症状についてのアドバイス	
2. 休暇をとらないで勤務中に受診	
3. 職場や自宅の近くで受診	
4. 夜間休日	
5. 希望日にすぐ予約できる	
6. 他のがん検診や他の健診と一緒に	
7. 無料	
8. 短時間	
9. 抽選や定員制でなく	
10. 女性スタッフ	* 上位 3 つまで選択

回答が地域バス検診で見られている。

無料という希望が目立ったが、実際に「自己負担金がいくらまでなら検診を受けようと思うか」という問いには、表 8 のように1,000円～3,000円という現実的な回答が多かった。個人検診では5,000円という回答も見られた。

Ⅲ. 考 察

今回のアンケートで5,733名が回答し、そのうち「ほぼ定期的に受診している」が73.3%であり、回答の詳細を見ると職域検診の繰返しの定期検診受診者が多く、不定期と回答した方はバス検診で多くみられた。この結果において、繰返し検診を受けている方が予想以上に多いことがわかった。東京都福祉局のアンケート調査⁵⁾では、2年以内に受診した方が30.9%、2年以上前に受診した方が36%、受診したことがないと回答された方が37.9%と報告されており、検診を受けたことのない方を一度でも検診会場に行かせるための方策が受診率向上の一つのポイントではないかと思われる。

定期的に受けている方の理由では「年齢的に検診の対象であるから」「検診の内容(メニュー)に含まれていたから」「検診のお知らせが来たから」が多かった。「年齢的に検診の対象である」と回答した方が多かったことは大変に好ましい点である。「がん検診に対して否定的な考えがある」「健康に自信がある」という

表 7

	第一位	第二位	第三位	第四位	第五位
全体	無料	職場自宅近く	希望日	他の検診と一緒に	女性スタッフ
地域・施設内	他の検診と一緒に	希望日	職場自宅近く	アドバイス	勤務中
地域・バス	無料	希望日	他の検診と一緒に	職場自宅近く	抽選定員制でなく
地域・離島	無料	職場自宅近く	希望日	短時間	他の検診と一緒に
職域	無料	職場自宅近く	女性スタッフ	他の検診と一緒に	勤務中
個人	女性スタッフ	他の検診と一緒に	希望日	アドバイス	職場自宅近く
	第一位	第二位	第三位	第四位	第五位
東京都	無料	他の検診と一緒に	短時間	職場自宅近く	アドバイス

* 略語にて記載、詳細は表 6 参照

表 8

	1 位	2 位	3 位
地域・施設内	3,000円	1,000円	2,000円
地域・バス	2,000円	1,000円	3,000円
地域・離島	2,000円	1,000円	3,000円
職域	3,000円	1,000円	2,000円
個人	2,000円	3,000円	5,000円

参考(当施設における現在の自己負担金)

地域・施設内	無料～800円
地域・バス	無料～2,380円
地域・離島	無料～2,000円
職域	無料(ただしオプションの場合には個人検診に準ずる)
個人	5,000円～15,000円

回答が少なかったことも良い傾向だと考えられる。従来より議論の対象になっている「夜間・休日の検診」の希望に関しては回答が少なかった。島嶼部を含むバス検診では「近隣に専門施設がないから」という切実な意見も多く、マンモグラフィ搭載車による出張検診の役割を改めて考えさせられた。

あまり定期的に乳がん検診を受けてない方の乳がん検診を受けない理由については、「今回ががん検診開始の年だったので」というがん検診開始年齢の方を除くと「忙しい」「面倒くさい」という理由が目立った。次いで「どこで受けたらよいかかわからず」や「費用が負担」という意見があった。都心部でなく、島嶼部を含むバス検診で「心配であればいつでも医療機関に行ける」という回答が多かったのは意外であった。ただし、特に島嶼部の検診では検診の開催期間が年間で4～5日間と限定されており、その期間に諸事情によって受けられない方も多いと考えられ、そのような方が「心配であればいつでも医療機関に行ける」と回答している可能性も考えられた。また自由意見として複数の女性より「妊娠、出産、授乳が続きマンモグラフィ検診を受けることができなかった」というものがあり、高齢出産の傾向がますます強まる現代社会においては、妊娠出産の年齢と乳がんの好発年齢が重なってきており、妊娠中はともかく授乳期の乳がん検診をどうするかのも一つの課題であると思われた。

もっと積極的に乳がん検診を受診するには「無料」「自宅や職場近く」「希望日」「他のがん検診と共に」などがあった。「女性スタッフ」の要望は職域検診や個人検診では多くみられたが、地域検診では比較的少なかった。「夜間・休日の検診」の希望は以前に当施設で実施した無料クーポン受診者のアンケート調査⁶⁾結果と同様に少なく、それよりは「勤務時間中」の検診を希望する方が多かった。自由意見として職域検診の受診者より「私は職場の検診で受けられるので良いが、そうでない方は受けにくいと聞いている」というものや「検診を受けやすくする職場の雰囲気がない」などというものがあり、仕事をしている女性が検診を受けやすい環境やシステム作りも大きな課題だと思われた。

東京都下地域で不満のあった「抽選・定員制」については、各区市町村の財源などの事情もあると思われるが、早急に改善すべき課題だと思われた。

また「無料」の要望はあるものの、負担金の許容範囲は2,000円～3,000円と現実的なものであった。無料を希望した方の割合は全体で13.4%、都心部が15.5%、都下が13%、島嶼部が11.2%、職域検診が14.1%、個人検診が5.6%と、個人検診で少ない以外

はおおよそ同じような割合であった。島嶼部ではやや高くでも検診を受けたいというコメントもあり、他の地域よりも無料希望の割合がやや低かった。

おわりに

今回、5,733名にアンケート調査を実施した。同じ東京都民と言っても、23区内、郊外、島嶼地域とライフスタイルが異なるエリアでのアンケート調査で相違点が出るのではないかと当初は予想されたが、今回の結果では受診者の希望や傾向にエリアごとの大きな違いはないことが判明した。

東京都の調査によっても任意型検診受診者が対策型検診に比べてほとんどの世代でも多い傾向があり、それが東京都のような大都会型検診の特徴であることが明らかとなった。その中でも特に23区内、職業を持っている女性からは、夜間休日よりも「勤務中」に検診を受けたいという意見が地域検診の受診者にもみられた。したがって、職業を持つ女性が地域検診を受けやすくするためのシステム作りの必要性を感じた。またできれば職域検診の一環で、勤務時間中に業務としてがん検診も受けたいという希望も明らかとなった。

今回のアンケート調査をふまえて、職業を持っている女性が地域検診を受けやすくするシステム作りが今後の新たな課題であると同時に、職域検診や人間ドックをはじめとする任意型検診においてすでに乳がん検診を組み込んでいる施設も多いが、その精度管理は十分とは言えず、任意型検診における精度管理の強化、法整備なども早急に解決すべき大きな課題だと改めて思われた。

【文 献】

- 1) 厚生省老人保健福祉局老人保健課長：「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」の一部改正について。老健第65号，平成12年3月31日
- 2) 厚生労働省老人保健福祉局老人保健課長：「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針の一部改正について」。老老発第0427001号，平成16年4月27日
- 3) 東京都福祉保健局，がん検診支援サイト：http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/jyusinritu01_05.html，2012/12/20/16:00
- 4) 東京都福祉保健局，がん検診支援サイト：<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/torikumi/chosa22.html>，2012/12/20/16:00
- 5) 東京都福祉保健局「平成20年度東京都がん検診実態調査報告書」，平成21年3月
- 6) 坂佳奈子，渡邊聡子，小野良樹：当施設における乳癌無料検診クーポン券の効果。日乳癌検診学会誌，20：127-134，2011